

《岩手・宮城両県警が警察官や避難者から聞き取りした状況等》

- 凡例 ○ 避難者からの聞き取り
□ 報道に寄せられた体験談
△ 警察官の体験談

1. 自動車利用により避難できたケース

- 自動車避難中、防潮堤の外側に車両が浮いているのを目にしたので、急遽、進路を変え、山側に避難した。途中、若干波に浸かったが、自動車で広範囲に移動できたため難を逃れた。(岩手・宮古警察署管内)
- 自動車避難中、前方に津波が押し寄せて来るのが見え、Uターンしたところ、更に前方に津波が見えたため、再度、Uターンして脇道に入り、高台に避難。付近に渋滞はなく、徒歩では移動範囲が限られており、津波にのみこまれていたはず。(岩手・大船渡警察署管内)
- 自家用車で帰宅するため、国道45号を気仙沼方向から本吉町方向に軽四で走行しているとき、左側の大谷海岸に津波が迫っているのに気づき、警察官が交通整理をしていた滅灯信号機を一目散に通過して、津波に追いつかれずに避難できた。バックミラーで後方確認したところ、津波が押し寄せて、後続車両も警察官も波にさらわれていた。(宮城・気仙沼警察署管内)
- △ 警察車両にて避難誘導を行いながら、高台まで避難(宮城・南三陸警察署)
- △ 交通課員は、地域課員2名とともに、地震の影響で名取市閑上五差路の滅灯信号機対策のため、発動発電機を積載して海岸と並行する県道を走行していたが、右前方の民家の樹木(高さ10m程度)の先端部に黒い水しぶきを見たことから、咄嗟に直前の交差点を左折し、山側の方向に走行したため、同僚とともに助かった。(宮城・岩沼警察署)
- 小学校の校庭に児童が整列し、迎えに来た保護者に児童を引き渡し中、警察官から「津波が来る、早く逃げろ!」との一言により、保護者及び教職員の自動車に児童全員を乗せて避難、全員が助かった。(宮城・亘理警察署管内)

2. 自動車利用により避難できなかったケース

- 自動車避難中、渋滞に巻き込まれている最中に津波にのみこまれたが、車両内から這い出て岸まで泳ぎ着き命は助かった。(岩手・釜石警察署管内)
- 友人と多賀城市の県道仙台塩釜線沿いの電器店で買い物中に地震にあった。自動車道路に出たが、県道は渋滞しており、水が迫ってきたため、自動車を捨てて外に飛び出た。自分はゲーム店の入り口に引っかかり、友人は歩道橋に流れ着いて無事だった。(宮城・塩釜警察署管内)

- 岩沼市に所在する会社社長は、地震発生直後、従業員にいち早く避難を指示、社長は社内の金庫等を施錠するなどして最後に外へ出た。会社前の道路が避難の自動車で渋滞していたことから、自転車で避難を開始。途中、渋滞車列の中にいた従業員の自動車を追い越した。結果として社長は助かったが、自動車を乗り捨てずに車内に止まった従業員は自動車ごと津波に流され行方不明となった。（宮城・岩沼警察署管内）

3. 車両利用により途中まで移動、最終的に徒歩により避難できたケース

- 自動車で避難中、波が押し寄せてきたので自動車を捨て付近の民家に上がろうとしたが、波が押し寄せてきたことから流されないように雨樋に掴まり、その後、水かさが下がるまでそのままの状態でした。自動車であったからこそ、波の勢いが小さいところまで移動できた。（岩手・大船渡警察署管内）
- 自動車で避難したところ、国道283号松原交差点から西方約150mの地点から渋滞が始まっていた（渋滞最後尾）。バックミラーで後方を見ると津波が迫ってくるのが見えたため、自動車から降り、先に避難していた人に導かれ、道路の脇にある大型の石油タンクの上に乗命拾いした。その後、間もなく津波が押し寄せて自動車は流され、渋滞車両の中には、津波に気付かずのみこまれた者もいたようだ。（岩手・釜石警察署管内）
- 仙台東部道路を目指して自動車で避難した住民が、東部道路の近くまで来ると渋滞が始まったため、途中で車を降り捨てて徒歩にて東部道路の斜面を登って助かった。（宮城・東警察署管内他）

4. 徒歩により避難できたケース

- 走って高台に上り難を逃れた。渋滞を考慮すれば徒歩が有効。（岩手・釜石警察署管内）
- 釜石市役所周辺の道路が渋滞したため、走った方が早いと判断。市役所から離れた駐車場に自動車を駐車し、市役所脇から通じる同市浜町の避難道路へ向かった。高台に上り助かったが、付近は2階付近まで水没した。（岩手・釜石警察署管内）
- 国道45号大船渡加茂地内において、避難を呼びかけていた交通指導員が、家を押して流して迫ってくる津波を見て、徒歩で避難を開始した。途中、膝まで波に浸かり走りにくかったが、道路は渋滞しており、徒歩のため何とか難を逃れた。（岩手・大船渡警察署管内）
- △ 志津川湾の海底が見えるほど引き潮になったことから、防災無線等で「津波の到来」を確認し、署員全員で地域住民に声を掛けながら、高台まで一緒に走り続けて助かった。車両で避難した場合、移動に手間取り間に合わなかった可能性もあるが、入り江から山間部まで距離が短いこともあり、徒歩で避難することができたので助かった。（宮城・南三陸警察署）

5. 徒歩により避難できなかったケース

- 徒歩で避難中、足取り重く避難している高齢者を見て、背負って避難中に津波が押し寄せてきて波にさらわれた。本人は何とか泳ぎ命は救われたが、背負っていた高齢者については、そのまま波にのみこまれた。(岩手・宮古警察署管内)

6. その他（東洋大学とNPO法人による調査結果と分析）

	合 計	釜石市	名取市
調 査 数	198人 (100.0%)	105人 (100.0%)	93人 (100.0%)
徒歩で避難	88人 (44.4%)	68人 (64.8%)	20人 (21.5%)
車両で避難	81人 (40.9%)	22人 (21.0%)	59人 (63.4%)
そ の 他	29人 (14.6%)	15人 (14.3%)	14人 (15.1%)

- ※ 両市は、ともに三陸海岸にあり、死者・行方不明者が1,000人超(5月6日の消防庁報道発表資料によるもの)。
- ※ これまで何度も津波の被害を受けた釜石市と、仙台平野の南部にある名取市では、避難手段に大きな違いがある。
- ※ 東洋大学社会学部の関谷直也准教授(災害社会学)は、「名取のような平野部には高台が少なく、車で海岸からより遠くへ逃げざるを得ない」と分析。

車内から発見された遺体収容数(調査時分)

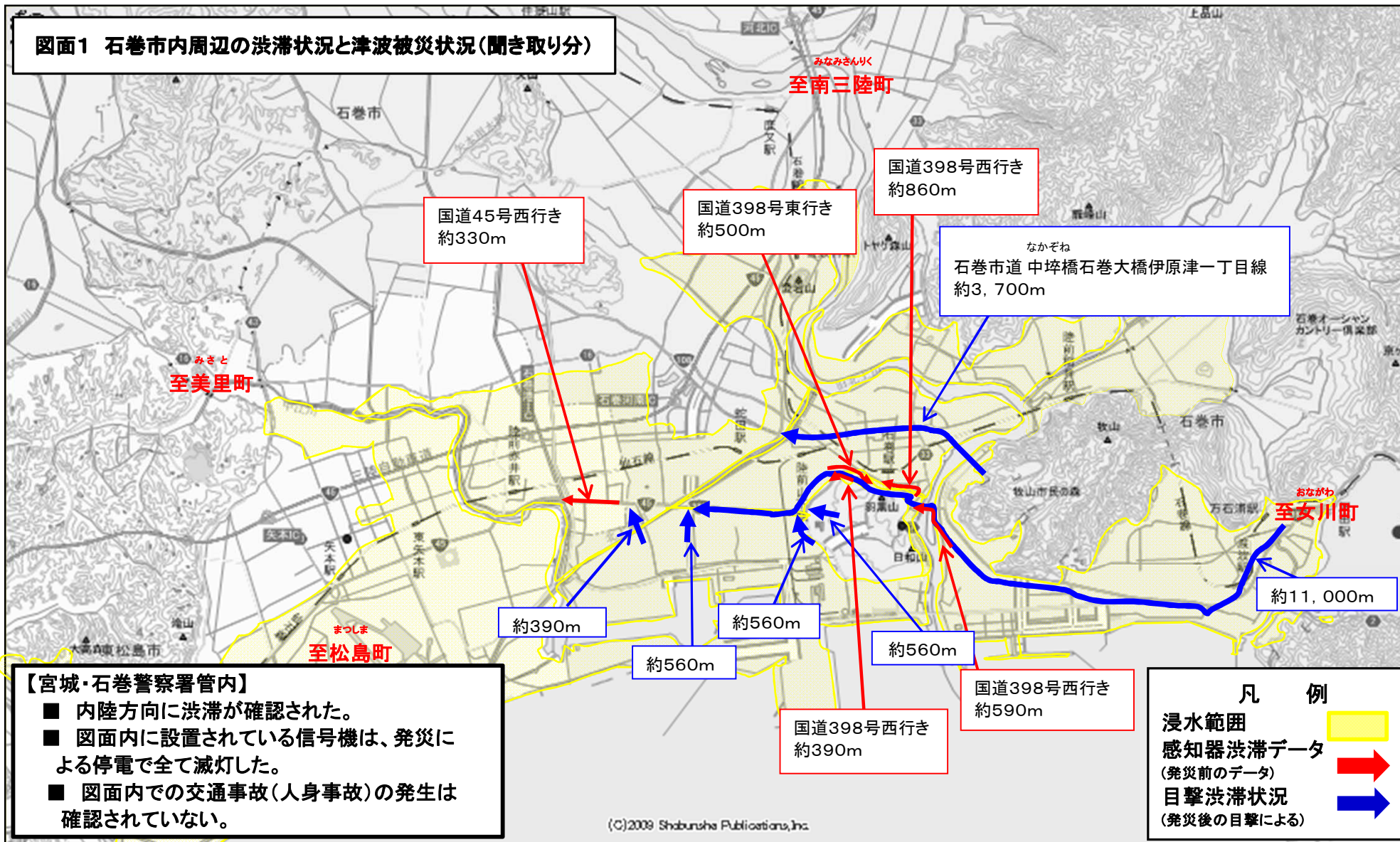
県名	遺体収容総数	うち車内	割合(%)
宮城(8月7日現在)	9,384	575	6.1
岩手(7月30日現在)	4,616	102	2.2

(注)死体取扱いの際の書類において、発見時に車内に遺体があったとされているものの数を計上しており、車両で避難中であったかどうかは不明である。他方、津波により車外放出されたものなど、このほかに自動車で避難中、被災された方もあると見込まれる。

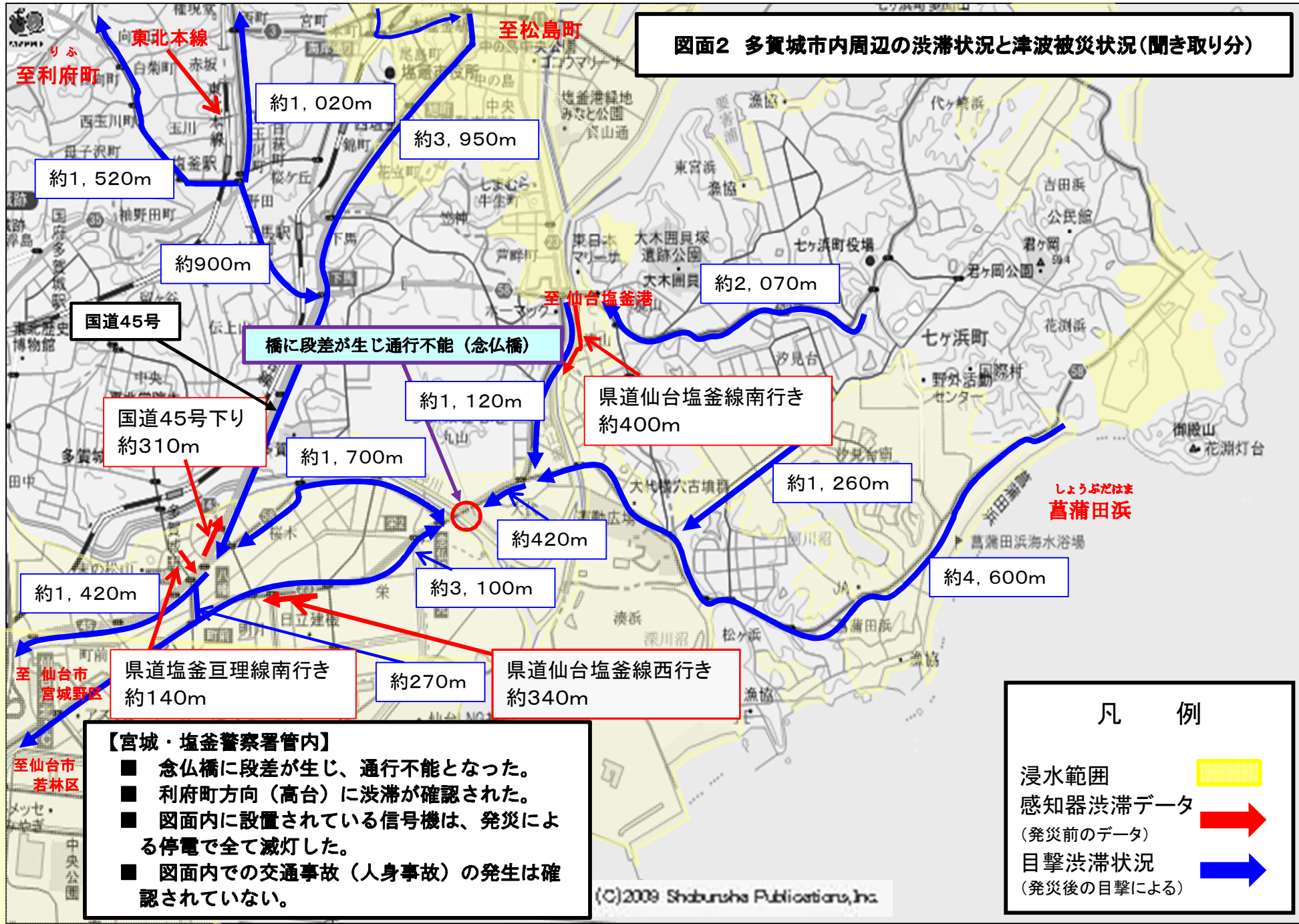
位置図



図面1 石巻市内周辺の渋滞状況と津波被災状況(聞き取り分)




図面2 多賀城市内周辺の渋滞状況と津波被災状況(聞き取り分)





【宮城・塩釜警察署管内】

- 念仏橋に段差が生じ、通行不能となった。
- 利府町方向（高台）に渋滞が確認された。
- 図面内に設置されている信号機は、発災による停電で全て滅灯した。
- 図面内での交通事故（人身事故）の発生は確認されていない。

凡 例

浸水範囲 

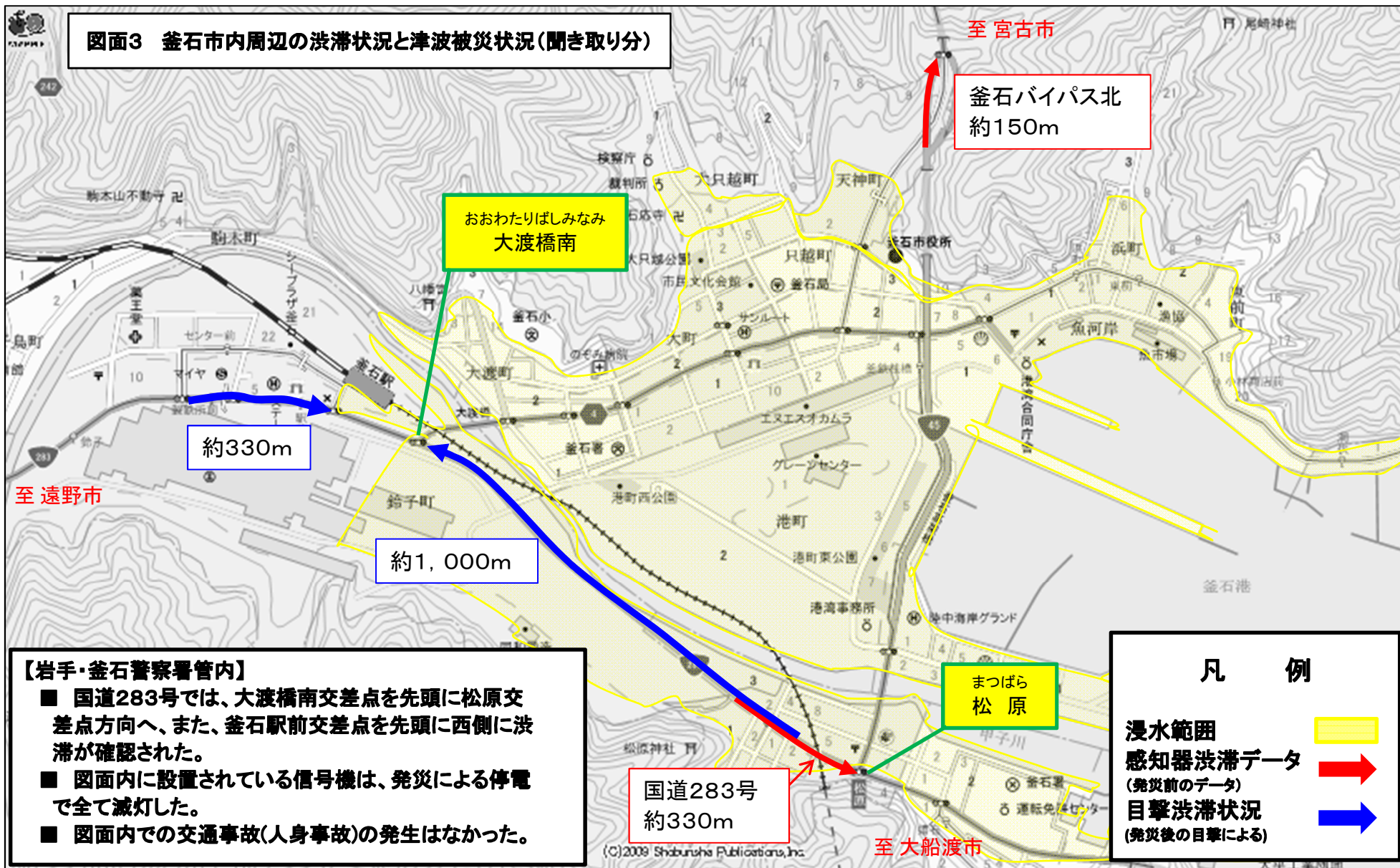
感知器渋滞データ
(発災前のデータ) 

目撃渋滞状況
(発災後の目撃による) 

図面2. 多賀城市における渋滞状況と津波被災状況



図面3 釜石市内周辺の渋滞状況と津波被災状況(聞き取り分)



【岩手・釜石警察署管内】

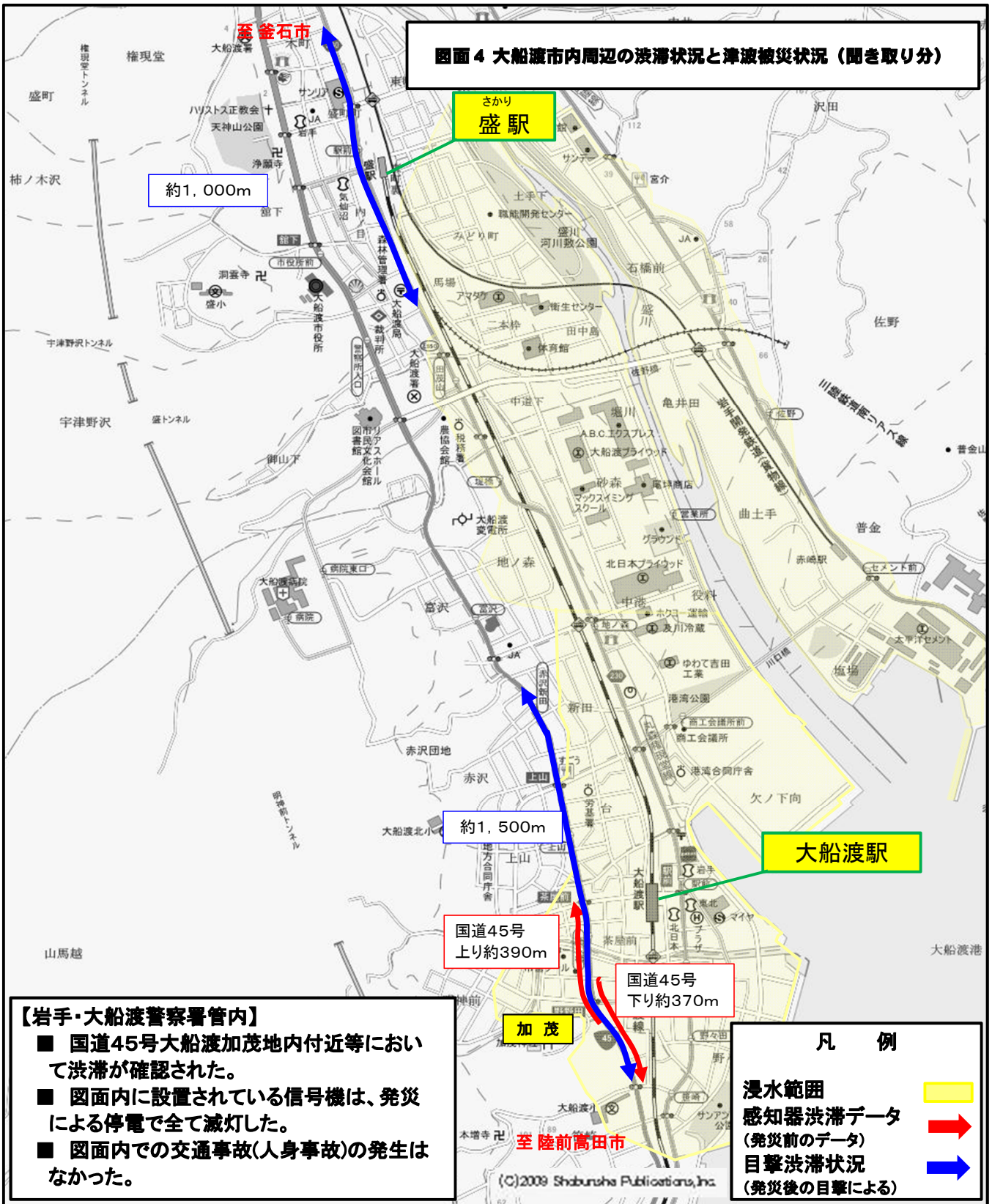
- 国道283号では、大渡橋南交差点を先頭に松原交差点方向へ、また、釜石駅前交差点を先頭に西側に渋滞が確認された。
- 図面内に設置されている信号機は、発災による停電で全て滅灯した。
- 図面内での交通事故(人身事故)の発生はなかった。

凡 例

- 浸水範囲
- 感知器渋滞データ (発災前のデータ)
- 目撃渋滞状況 (発災後の目撃による)

(C)2009 Shabunsha Publications, Inc.

図面4 大船渡市内周辺の渋滞状況と津波被災状況（聞き取り分）



【岩手・大船渡警察署管内】

- 国道45号大船渡加茂地内付近等において渋滞が確認された。
- 図面内に設置されている信号機は、発災による停電で全て滅灯した。
- 図面内での交通事故(人身事故)の発生はなかった。

凡 例

- 浸水範囲
- 感知器渋滞データ (発災前のデータ)
- 目撃渋滞状況 (発災後の目撃による)